

地理空間情報産学官連携協議会 全体会議(第3回) 議事概要

1. 日時

平成22年7月5日(月) 14時00分～15時30分

2. 場所

九段第2合同庁舎国土地理院関東地方測量部地震予知連絡会大会議室(8階)

3. 出席者

<産>

衛星測位システム協議会
(財)衛星測位利用推進センター
(特)国土空間データ基盤推進協議会
(社)全国測量設計業協会連合会
(財)日本情報処理開発協会
(社)日本測量協会
(財)日本測量調査技術協会
(社)日本地図調製業協会

<学>

九州大学大学院工学研究院 江崎哲郎教授
東京大学空間情報科学研究センター 柴崎亮介教授
北海道大学大学院文学研究科 橋本雄一准教授
東京海洋大学大学院衛星航法工学講座 安田明生特任教授

<官>

内閣官房副長官補(内政・外政)付 内閣審議官
内閣官房副長官補(内政・外政)付 内閣参事官
内閣官房副長官補(内政・外政)付 内閣参事官
国土交通省国土計画局
国土交通省国土地理院
内閣官房宇宙開発戦略本部事務局
内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付
内閣府政策統括官(防災担当)付
警察庁情報通信局
総務省情報通信国際戦略局
総務省自治行政局
文部科学省研究開発局
農林水産省大臣官房
経済産業省製造産業局
経済産業省商務情報政策局
国土交通省大臣官房
国土交通省土地・水資源局
防衛省防衛政策局
統合型GIS自治体連絡会議
(社)全国国土調査協会

4. 議事次第

- 1) 開 会
- 2) 内閣審議官あいさつ
- 3) 議 事
 - (1) 各WG(研究開発・防災・G空間EXPO)の現状報告
 - (2) 関連施策の紹介及び意見交換
 - ・ GIS-JAPAN ポータルサイト(仮称)の構築(国土交通省国土計画局)

- ・ 準天頂衛星初号機「みちびき」(文部科学省)
- ・ 第6回ICG日本招致(宇宙開発戦略本部事務局)
- ・ 場所情報コード(国土交通省国土地理院)
- (3) 推進会議の取組の紹介
 - ・ 個人情報ガイドライン及び二次利用促進ガイドラインに係るパブリックコメント
 - ・ G空間行動プラン(平成21年度決定)フォローアップ
- (4) その他

4) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

(1) 各WG(研究開発・防災・G空間EXPO)の現状報告

○各WG担当より資料説明

○質疑応答

・(東京大学 柴崎教授)防災WGへの要望として、メタデータ等の標準化は大変重要であるが、標準化だけでは効力がないため、標準化されたものを守る体制が重要になる。例えば、最低ラインを決める等のインプリメンテーションの考えはあるか。

→(内閣府政策統括官(防災担当)付)標準化を行い、いずれ利活用、二次利用をすることが重要と考える。利活用を進めるという点で、WGの委員からも意見を聞いて、最終的に政策提言のようなものができればと考えている。なお、防災情報は、ナーバス情報等の重要な情報もある。取扱を間違えることによって、よりまずい情報にもなる恐れもあり、そのような視点も忘れないようにしたい。

・(九州大学 江崎教授)行政の枠組みとして進められるのは理解できるのだが、その中身が肝心である。地理空間情報は単に便利なものということではなく、例えば仕事の中身が変わるといったクリエイティブなものである。支援するといったものから、活動を変える、イノベーティブなものになるためには、その中身が大切だ。例えば、災害の予知型や予測型への変革に向けた内容(中身)にも期待したい。

→(内閣府政策統括官(防災担当)付)静的なリスク情報と応急対策の間にある、リアルタイムの洪水氾濫情報により、避難行動をより確かに、安全に進めるべきだという意見かと思う。大規模水害対策については、3年前から大規模水害対策に関する専門調査会において検討してきており、リアルタイムのシミュレーションを避難行動に繋げるといった、検討も始まっているので、防災WGの成果を使い、一体として進めていきたい。

→(九州大学 江崎教授)防災に限らず、いろいろな視点でやっていただきたい。

→(内閣官房副長官補(内政・外政)付)関係府省も、利活用という視点から進めていただきたい。

・(北海道大学 橋本准教授)人文社会学的に、避難行動を研究しているが、例えば雪の多い地域では、雪の状況により、避難場所も日々変わるものである。避難行動のコントロールも含めた情報提供が必要になってくるので、個人の行動に役立つものまで進んでいければ良いと思う。

(2) 関連施策の紹介及び意見交換

・ GIS-JAPAN ポータルサイト(仮称)の構築(国土交通省国土計画局)

○国土交通省国土計画局より資料説明

○質疑応答

(特になし)

・ 準天頂衛星初号機「みちびき」(文部科学省)

○文部科学省より資料説明

○質疑応答

(特になし)

・ 第6回ICG日本招致(宇宙開発戦略本部事務局)

○内閣官房宇宙開発戦略本部事務局より資料説明

○質疑応答

(特になし)

・ 場所情報コード(国土交通省国土地理院)

○国土交通省国土地理院より資料説明

○質疑応答

・(東京海洋大学 安田特任教授)5m メッシュの N コードが関西地方では受け入れられているが、それと場所コードはどういう関係になるのか。

→(国土交通省国土地理院)同じようなメッシュであれば、2つの基準になるということではなく、連携してやっていければ良い。

→(東京海洋大学 安田特任教授)共同研究では、既存のコードとのマージ、共存の体系をどうするかということもテーマになるのであれば、N コード担当者にお知らせしておく。

(3) 推進会議の取組の紹介

・ 個人情報ガイドライン及び二次利用促進ガイドラインに係るパブリックコメント

○国土交通省国土計画局より資料説明

○質疑応答

・(衛星測位システム協議会)空間情報、位置情報には、ナショナルセキュリティ上の問題もある。個人情報等のガイドラインに合わせて検討していただきたい。1/500 の詳細な地図がオープンになると、国家の安全保障上危険だと思われる。

→(国土交通省国土計画局)今回のガイドラインは、「個人情報の取扱」と「二次利用促進」についてであるが、この他に、「国の安全」についても政府の地理空間情報活用推進会議の下に検討チームを設置しており、その検討チームにおいて枠組みを検討している。

・ G空間行動プラン(平成 21 年度決定)フォローアップ

○内閣官房副長官補(内政・外政)付より資料説明

○質疑応答

・(北海道大学 橋本准教授)No.119 の農地情報共有化支援事業(水土里事業)は廃止ではないのか。

→(内閣官房副長官補(内政・外政)付)本フォローアップは、平成 21 年度にとりまとめた計画についてのフォローアップであるから、水土里事業についても掲載されている。

・(内閣官房副長官補(内政・外政)付)いただいた意見については関係府省にも連絡するので、ただいま説明したフォローアップや今年度の G 空間行動プランの作成、予算要求などについて、ご意見・ご提案などがあれば、事務局までお願いしたい。

(4) その他

○東京大学 柴崎教授より参考資料説明(次期基本計画の改定に向けて、産学官の体制で検討したい旨の提案)

→(内閣官房副長官補(内政・外政)付)基本計画の改定に向けては、学識経験者や産業界の知恵やお力を借りたいと思う。体制については、この場でお答えすることはできないが、今後各府省とも検討、相談していきたい。

○その他発言

・(東京海洋大学 安田特任教授)主要国は、独自で衛星測位通信システムを持つ試みがある。QZSS は、通信のパイプがなくなったが、中国の北斗は、通信手段があり、災害時も機能したという。通信の機能についても考えたら良いと思う。例えば海賊対策のソフトを作った民間事業者が、そのソフトを実際に船に搭載しようと思うと、通信費だけで莫大な経費がかかると言っていた。QZSS で通信もできれば、役に立つのではないか。

・(九州大学 江崎教授)行政の進める新たな計画は、今後「やること」を総花的にまとめたものであることが多いが、一方では、「新たにやること」に代えて「これまでやっていることをやめる」という視点も大事であると思う。地方公共団体等の現場では、新たな計画を作るとこれまでの任務に加えて、さらに何をやることになるのか、という疑問を持つように思われる。従来の任務に加えてやるというこ

とではなく、例えばデジタル化したら、紙の地図はやめる、ということができないか。新しいことをやれば、従来のことをやめても、プラスになるという発想が必要である。自分の任務は依然として続けており、やめられないということが、現場の負担となっている。「〇〇ができるなら、××はやめても良い」ということが計画に含められれば良いと思う。

以 上